

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

南河内地区唯一の夜間定時制高校の意義を踏まえ、地域に根差した教育活動を行い、将来地域を担う人材を育成し、地域と共に歩む学校をめざす。

- 1 働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を展開する。
- 2 生徒に基礎・基本の学力を定着させるとともに、自尊感情と自己有用感を高め、志と生活力のある社会人を育成する。
- 3 地域との連携を深め、地域から信頼され必要とされる人材を育成する。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の基礎学力を向上させる。

- ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT 機器等の活用を推進し、授業内容・方法の改善を進める。
- イ 生徒の基礎学力の定着をめざした、授業方法の開発・実践を行う。
- ウ 教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。
- エ 新型コロナウイルス感染症に係る対応として、広報・情報委員会を中心とし、ICT 環境の校内整備や Wi-Fi 環境、SNS 環境等を持たない生徒の対応を行う。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。

- ア 生徒の実態に応じた、基礎的・基本的な学力の定着をめざした、教育課程の充実を図る。
- イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、高度な技能・技術など本物に触れる教育を実践する。
- ※ 学校教育自己診断(生徒)における「わかりやすい授業が多い」の肯定的回答(R1:78.9%、R2:71.9%、R3:64.1%)を令和6年度には80%以上にする。

2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心を育む

(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。

- ア 「農園実習」や「ボランティア活動」を通して、豊かな人間性や自尊感情、自己有用感を育む。
- イ 「寄り添う教育」を基幹としながらも、校則の遵守や授業規律の確立など、生徒の規範意識の醸成に取り組む。
- ウ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」に取り組む。

(2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。

- ア 教育活動全体を通じて入学時から卒業までを見据えた進路指導を行い、外部機関等とも連携しながら、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。
- イ 実践的な職業教育を通じて、社会人としての資質や能力を身につけさせるとともに、進路につながる資格取得のための支援を充実させる。
- ※ 進学希望者の進学率(R1:77.8%、R2:50.0%、R3:100%)及び、就職希望者の内定率(R1:72.4%、R2:76.0%、R3:100%)ともに令和6年度まで100%を維持する。

(3) 中途退学・不登校生徒の減少に取り組む。

- ア 中高連携・人間関係や居場所づくり・基礎学力養成講座等を通じて、中途退学・不登校生徒を減少させるための取り組みを行う。
- イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや教育相談の機能を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における、学校に対する満足度(R1:74.4%、R2:74.3%、R3:71.1%)を、令和6年度には肯定的回答を80%以上にする。
- ※ 教育相談体制をさらに充実させ、生徒向け学校教育自己診断における「担任以外に相談することができる先生がいる」(R1:63.1%、R2:59.4%、R3:64.1%)を、令和6年度には70%に引き上げる。

3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 生徒たちの安心と安全のための取り組みの充実を図る。

- ア 校内の教育相談体制を充実させ、生徒が気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。
- イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して、交通安全指導を行う。
- ウ 大麻・覚せい剤等の薬物乱用防止教育を、教育活動全体を通じて取り組む。
- エ 保健・安全衛生に関して啓発を行い、感染症や熱中症、食物アレルギー等に係る予防や事故防止に努める。

(2) 保護者や地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを推進する。

- ア 長期欠席等の生徒の状況を家庭に連絡し、保護者の協力を得るなど、家庭と連携した生徒の出席状況の改善を行う。
- イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深め、生徒理解や生徒支援の充実を図る。
- ウ 近隣幼稚園等の園児や地域の方々を、農園の作物収穫へ招待し地域との連携を深める。また「クリーンキャンペーン」等の取り組みを通じて、地域と共に歩む学校づくりを推進する。
- エ 学び直しを希望する編転入生を受け入れ、卒業まで導くサポートを行い、地域の「学び」のセーフティネットとしての定時制高校の役割を果たす。
- オ 生徒が安心して学校生活を送るための合理的な配慮を推進し、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。
- ※ 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(R1:80.7%、R2:81.0%、R3:81.3%)を、令和6年度には85%以上をめざす。

4 学校運営の活性化と教職員の資質向上

(1) 学校運営の活性化を図る。

- ア 准校長のリーダーシップのもと、首席を中心に各分掌・学年等と密接にコミュニケーションを取りながら、PDCA サイクルによる学校経営を推進する。
- イ 分掌や委員会等の活性化と効率化を図り、毎日の職員連絡会も活用しながら生徒の状況や配慮事項等の情報共有を行い、速やかな課題解決に努める。
- ウ 働き方改革を推進するため、「府立学校における働き方改革に係る取り組みについて」に沿って、会議時間の短縮や内容の精査のために事前に資料配付するなど、意識改革を進めていく。
- エ 学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する。

(2) 教職員の資質向上を図る。

- ア 日常的なOJTの推進、校内研修の活性化を行う。
- イ ベテランの教職員の協力を得ながら、ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。
- ※ 校内研修・報告会・連絡会等を合わせて年間10回以上実施(R1:4回、R2:4回、R3:11回)を令和6年度まで維持し、人材の育成や情報の共有などを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>※()内の%表示はいずれも(R3→R4)をあらわす 〔回収率〕 〔生徒(73.6%→63.5%)〕〔保護者(58.4%→41.7%)〕〔教員(100%→100%)〕 回収率を向上させるため、生徒は1人1台端末を用いたフォーム作成ツールによる回答を、保護者は三者懇談時の回答を試みたが、年末の実施が原因か欠席や不参加が多く、回収率の向上に至らず。更なる工夫の検討と実践が必要。</p> <p>【学習指導等】 ・生徒「わかりやすい授業が多い」(64.1%→78.7%) ・保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」(69.9%→67.5%) ・教員「教材の精選・工夫を行っている」(96.2%→100%)、「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」(96.2%→95.9%) 授業内容・方法等の改善について意識を持って取り組んだ結果「わかる授業」の実現に一步前進した。更なる授業改善等を進めていく。</p> <p>【生徒指導等】 ・生徒「学校に行くのが楽しい」(60.9%→70.5%)、「先生は生徒達のことをよく見て対応してくれる」(81.5%→83.6%)、「先生の指導には納得できる」(72.9%→77.0%)、「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」(69.6%→82.0%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」(73.9%→75.4%) ・保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」(87.7%→97.5%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」(94.5%→95.0%)、「学校は生徒に生き方を考えさせ豊かな心を持った生徒を育てようとしている」(89.0%→97.5%)、「学校は子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている」(82.2%→97.5%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」(89.0%→100%) ・教員「生徒指導において、家庭との連携ができていく」(92.3%→91.7%) 保護者との連携を密にしながらか生徒に寄り添った指導等を行うことができた。生徒が更に楽しく安心して学校生活を送れるようになるために、引き続き保護者との連携を密にしながらか生徒に寄り添った指導等を継続していく必要がある。</p> <p>【学校運営】 ・教員向け学校教育自己診断における学校運営についての肯定率(76.4%→83.3%) 今年度は教職員の「声」に傾聴することに徹した。次年度は、准校長のリーダーシップのもと教職員の適性・能力に応じた校内人事等を行い、誰もがやりがいを感じられる学校運営を推進する。</p> <p>【まとめ】 次年度は「生徒の居場所づくり」「わかりやすい授業」「進路指導」「学校施設・設備の充実・整備」等について重点的に取り組む必要があると考えている。</p>	<p>【第1回 令和4年7月15日(金)】 ・「農園実習」は何か工業的(産学的)なことを学ぶためのものか。→総合学科におけるひとつのものづくり体験として行っているものである。 ・生徒数が減少している要因は何か。→府立高校全体としても減少傾向にあると考える。そのような中、本校は府内定時制の中では規模が大きい方である。 ・SSW・SCの活用事例について伺いたい。→第2回で回答。 ・防災訓練に係る柏原羽曳野藤井寺消防本部との連携について伺いたい。→新型コロナウイルス感染症拡大の影響により連携が途絶えていたもの。次年度以降も連携をお願いしたいところである。 ・生徒数の減少を逆手にとった生徒に寄り添う学校経営や観点別学習状況の評価導入による学校の進化を楽しみにしている。 ・GIGA スクール構想に係る取組みについて伺いたい。→タブレットを用いた授業ができるよう環境を構築している。リモートによる授業も可能だが、現在は校内での使用がメインとなっている。 ・生徒秋季発表大会の優秀ポスターに本校生徒の作品が選出されたことは本人にとって自信になった。 ・新型コロナウイルス感染症が再流行の兆しを見せているが、修学旅行には行かせてあげてほしいと思う。</p> <p>【第2回 令和4年11月18日(金)】 ・「授業アンケート結果の経年変化」に係る令和2年度第1回の結果について、生徒の肯定率が大幅に落ち込んでいる理由は新型コロナウイルス感染症拡大による2カ月の臨時休業が原因か。→お見込のとおりと考えている。 ・「スクール・ミッション(案)」について、本校及び生徒の実情等を踏まえてまとめられており、特に問題はないと考える。 ・「授業見学」を通して、生徒に寄り添った授業や支援がなされているように感じる。 ・「SSWから見た本校生徒の様子等」について、子どもの成長には多くの大人との接触が必要。地域を含め外部の方々がたくさん関われる機会を積極的に設けるなどの取組みを期待する。</p> <p>【第3回 令和5年2月17日(金)】 ・「令和4年度学校教育自己診断の結果・分析等」について →「学校へ行くのが楽しい」「わかりやすい授業が多い」「人権・・・」「相談できる・・・」など、前年度から大きく改善されている項目については素晴らしい。継続していくことが大切である。逆に低下した項目については真摯に受け止め、改善に向けた取組みを期待する。 ・「第2回授業アンケートの結果について →教員の努力がうかがえる。 ・「分掌・委員会等の総括」について →気づき、やりがいや自信、視野が広がることにつながるので資格取得を応援したい。常に工夫や改善を心がけ、それにより得られる効果は大きい。 ・上記内容等を踏まえた「令和4年度学校経営計画及び学校評価」「令和5年度学校経営計画及び学校評価」について、令和3・4年度学校教育自己診断の分析結果等をもとに取組み、計画の策定を行った。→特になし</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)基礎学力向上 ア 生徒の学習意欲を高める「わかる授業」の実現 イ 生徒の基礎学力の定着 ウ 教員の更なる授業力の向上</p> <p>(2)特色ある教育課程の充実 イ 特別非常勤講師等の外部講師の積極的活用、本物に触れる教育</p>	<p>ア・生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において研究授業を実施する。またICT機器活用研修を行い、授業内容・方法の改善を進める。 イ・生徒の基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の一環として、学び直しを目的とし、反復練習を主としたモジュール授業(理、数、国、英)を1年生中心に継続・拡大する。 ウ・教員の更なる授業力向上のため、ユニバーサルマナーの講習に参加し検定を受験する。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。</p> <p>イ・特別非常勤講師や高度熟練技能者等の外部講師を積極的に活用し、生徒の興味・関心が深まる授業づくりや、資格取得指導・進路講話など、生徒のキャリア意識が高まる本物に触れる教育を実践する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」を、70.0%以上に引き上げる。[64.1%] イ・4月の診断テスト結果より1月実施の診断テストでの正答率1.70倍をめざす。[1.68倍] ウ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、授業づくりの職員研修を実施する。[年1回]</p> <p>イ・外部講師の実践による指導を活用し、300h以上の授業に関わってもらう。[342h]</p>	<p>ア・授業内容・方法等の改善について意識を持って取り組んだ結果「わかる授業」の実現に一步前進した。更なる授業改善等を進めていく。(◎ [78.7%]) イ・生徒の基礎的・基本的な学力の定着につながった。今後も生徒の基礎学力の定着をめざした取組みを継続していく。(○ [1.73倍]) ウ・ユニバーサルマナー検定3級に初任者1名が受験・合格。「初任者による研究公開授業」や「公開授業週間」において研修成果を活かした授業づくりを実践し、他校教員や本校教員に広く発表したことで、本校教員の更なる授業力向上につながった。(◎)</p> <p>イ・生徒数が減少する中ではあるが、生徒の興味・関心が深まる授業づくりや、生徒のキャリア意識が高まる「本物」に触れる教育を実践できた。次年度も継続して取り組んでいきたい。(○ [342h])</p>
2 生徒の	<p>(1)豊かな人間性を涵養する ア 「農園実習」や「ボランティア活動」を通しての教育</p>	<p>ア・「農園実習」や「ボランティア活動」(クリーンキャンペーン等)を通して、豊かな人間性、自尊感情や自己有用感を育み、学校生活に前向きに取り組</p>	<p>ア・ボランティア参加者を在籍数の10%以上を確保する。[18.5%] 「クリーンキャンペーン」を年間5</p>	<p>ア・参加生徒の豊かな人間性、自尊感情や自己有用感を育み、学校生活に前向きに取り組ませることができた。今後も継続していく。</p>

<p>規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ</p>	<p>イ 「寄り添う教育」を基幹とし、生徒の規範意識の醸成</p> <p>ウ 校種間連携での豊かな人間性育成</p> <p>(2) キャリア教育・資格取得の充実</p> <p>ア 入学時から進路指導を実施・就職支援体制整備</p> <p>イ 進路につながる資格取得のための支援の充実</p> <p>(3) 中途退学・不登校生徒減少への取り組み</p> <p>ア 中途退学・不登校生徒を減少させるための取り組みを行う</p> <p>イ 「課題を抱える生徒フォローアップ事業」の活用</p>	<p>ませる。</p> <p>・クリーンキャンペーンについては、ボランティアの生徒だけでなく、前後期に各1回ずつ LHR や行事に組み込み、より多くの生徒達を巻き込み学校全体の活動とする。</p> <p>イ・授業規律(禁止事項…携帯電話やスマートフォンの使用、立ち歩き・私語・その他人に迷惑をかける行為等)の確立と校則の遵守。</p> <p>①全教職員による声掛け ②毎時間の校内巡回や教室入り込み及び廊下からの観察 ③登校時～下校時までの立ち番係による観察及び声掛け指導 ④担任・生活指導部等への報告。</p> <p>ウ・支援学校等との共同学習の実践を通じて、他者を理解し思いやる心や自身を大切にする姿勢を身につけさせる。</p> <p>ア・職場体験・学校見学や面接指導等、入学から卒業までを見据えた進路指導計画のもと、生徒の進路実現の支援を充実させる。</p> <p>イ・進路につながる資格取得の推進を通して、キャリア教育の充実を図る。放課後や短縮授業期間、夏休み等を使い講習を行う。</p> <p>ア・中高連携・人間関係・居場所づくり・基礎学力講座等を通じ、中途退学・不登校生徒を減少させることに重点をおき、家庭はもちろん就業先雇用主とも連携を深めながら、授業への出席率を向上させる。</p> <p>イ・「課題を抱える生徒フォローアップ事業」を活用し、支援教育コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる支援体制づくりや教育相談の機能を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。</p>	<p>回実施、継続する。[4回]</p> <p>・LHR や行事を利用して、前後期に各1回ずつ組み込む。[0回]</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における「学校生活について、先生の指導には納得できる」を75%以上にする。[72.9%]</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断における「学校の生徒指導の方針に共感できる」の80%以上を維持する。[87.7%]</p> <p>ウ・年2回の支援学校との共同学習の再開継続。[0回]</p> <p>ア・進学希望者進学率[100%]、就職希望者内定率[100%]。希望者全員合格100%をめざす。</p> <p>イ・資格取得数を、年間取得総数(延べ数)を在籍者数の18.0%以上をめざす。[16.1%]</p> <p>ア・中途退学率を10.0%以下にする。[8.5%](R4.03.18現在)</p> <p>イ・SSW や SC も含めたケース会議やコア会議を昨年度と同程度の回数を実施する。[43回](R4.3.18現在)</p>	<p>(○ [15.5%])(○ [5回])。</p> <p>・定期考査前日にクリーンキャンペーンを実施し、学校全体の活動とすることができた。次年度も継続していく。(○ [4回])</p> <p>イ・生徒の規範意識の確立と向上をめざし、全教職員が一丸となって、取り組んだ。次年度も生徒に寄り添った指導等を継続していく。(○ [77.0%])</p> <p>・保護者との連携を密にしながら生徒に寄り添った指導等を行うことができた。次年度も継続していく。(○ [97.5%])</p> <p>ウ・現状、支援学校等との共同学習の実践は困難。次年度以降は、外部講師による講演会等の活用により、他者を理解し思いやる心や自身を大切にする姿勢を身につけさせる。(△ [0回])</p> <p>ア・進学希望者進学率100%、就職希望者内定率100%を達成。次年度は入学から卒業までを見据えた進路指導計画のもと、生徒の希望進路実現を支援する。(○)</p> <p>イ・進路につながる資格取得の推進に取り組んだ結果、資格の年間取得総数(延べ数)は在籍者数の52.0%となった。引き続き生徒の希望進路の実現につながるキャリア教育の充実を図る。(◎)</p> <p>ア・中退防止等に取り組んだ結果、中途退学率が5.2%。引き続き「なごみカフェ」や教育相談室等の居場所確保、生徒個々の状況に応じた細やかな対応を継続する。(○)</p> <p>イ・より確かな生徒支援体制を構築することができた。引き続き支援教育コーディネーターを中心に生徒が安心して学校に通える環境を確保していく。(○ [37回])</p>
<p>3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 安心と安全のための取り組み</p> <p>ア 校内の教育相談体制の充実</p> <p>イ 交通安全指導</p> <p>ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育の実施</p> <p>(2) 家庭・地域との連携、地域から信頼され必要とされる学校づくり</p> <p>ア 家庭との連携による生徒の出席状況の改善</p> <p>イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、生徒理解や生徒支援の充実を図る</p> <p>ウ 近隣幼稚園等の園児・地域の方々</p>	<p>ア・多様な生徒・保護者の相談や需要数の増加を受け、より一層教育相談体制の充実を図り、SC(スクールカウンセラー)・SSW(スクールソーシャルワーカー)の積極的活用を図る。</p> <p>イ・通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学者に対して交通安全指導を行う。</p> <p>ウ・薬物乱用防止教室の実施、生徒・保護者への啓発等、充実を図る。</p> <p>ア・保護者懇談会の充実や学年通信の発行、家庭訪問等、保護者と密に連絡を取り合い連携を深める。</p> <p>イ・在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、生徒理解や生徒支援のための中学校との連携を深めるとともに、本校の教育活動の広報を行う。</p> <p>ウ・近隣の幼稚園等の園児や地域の方々を、農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続し本校</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「担任以外に相談することができる先生がいる」を66%に引き上げる。[64.1%]</p> <p>イ・交通安全指導を年間3回以上開催。[4回]</p> <p>ウ・薬物乱用防止教室を年間2回開催する。[2回]</p> <p>ア・保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度を83%以上にする。[81.3%]</p> <p>イ・出身中学校全校訪問を維持する。[42/42校]</p> <p>ウ・年間に10団体程度を農園に招待する。[4団体]</p>	<p>ア・支援教育コーディネーターを中心に担任等との連携強化を図り、SSW・SCの積極的活用を図り生徒・保護者等の相談に対応した。今後もSSW・SCと連携し、より一層教育相談体制の充実を図る。(○ [75.0%])</p> <p>イ・生徒の通学時の安全確保のため、毎日の校門での指導を含め4回の定期交通安全指導を行った。次年度も継続していく。(○)</p> <p>ウ・生徒の安全のため2回の薬物乱用防止教室と全校集会等を活用した適宜の啓発活動を実施した。今後も必要に応じて保護者や外部機関等とも連携しながら生徒の見守りを継続していく。(○)</p> <p>ア・定期考査ごとに保護者懇談会を行い、学年通信の発行、家庭訪問等、保護者と密に連絡を取り合い連携を深めた。引き続き保護者との連携を深めていく。(○ [88.3%])</p> <p>イ・37校(○)引き続き生徒支援のための中学校連携を図るとともに、本校に通う生徒の成長や定時制高校の有用性について広報を行う。</p> <p>ウ・近隣の幼稚園等の園児や地域の方々等のべ8団体を農園の作物収穫へ招待し、地域</p>

	等、地域と共に歩む学校づくり	の教育活動への協力と理解を深める。		との連携を行った。地域から本校教育活動への理解と協力が得られるよう引き続き連携を深めていく。(○)
	オ 合理的な配慮の推進「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす	オ・生徒が安心して学校生活を送れるよう、SC 及びSSW による合理的配慮を推進するための研修会を実施する。	オ・合理的配慮に関する研修会を2回行う。[2回]	オ・生徒が安心して学校生活を送れるよう、SSW・SC 等による合理的配慮を推進するための研修会を2回実施した。引き続き SSW・SC や関係外部機関等と連携した職員研修を実施し、合理的配慮の推進に取り組んでいく。(○)
4	学校運営の活性化と教職員の資質向上			
	(1) 学校運営の活性化を図る			
	ア 学校経営の推進	ア・経営戦略会議(准校長・教頭・首席)を定期的開催、また首席を中心とし分掌長会議等を通じてコミュニケーションを図り、経営計画の進捗状況について情報を共有し検証しながら、PDCA サイクルによる学校経営を推進する。	ア・経営戦略会議年間 40 回以上実施[45 回]	ア・経営戦略会議(准校長・教頭・首席)を回数・内容を精査し、構成員の負担軽減に努めながら 23 回開催し、経営計画の進捗状況について情報を共有し検証しながら、PDCA サイクルによる学校経営を推進した。(○)
	イ 分掌や委員会等の活性化、生徒の情報共有、速やかな課題解決	イ・分掌や委員会等の活性化と効率化を図り、毎日の職員連絡会も活用しながら生徒の状況や配慮事項等の情報共有を定期的に行い、速やかに課題解決に努める。	イ・教員向け学校教育自己診断における「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」を 83%以上にする。[80.8%]	イ・今年度は教職員の「声」に傾聴することに徹した。次年度は、准校長のリーダーシップのもと教職員の適性・能力に応じた校内人事等を行い、誰もがやりがいを感じられる学校運営を推進する。(○ [83.3%])
	ウ 働き方改革の推進	ウ・まずは「定時退庁」に努め、週1回の「全校一斉退庁日」及び「ノークラブデー」の確認、「学校閉庁日」の設定の意義など、教職員一人ひとりの意識改革を進める。 また、会議の回数減や時間短縮などにつながる取組みを実践する。	ウ・ストレスチェック総合リスク[63]を、維持する。	ウ・「定時退庁」に努め、週1回の「全校一斉退庁日」及び「ノークラブデー」の確認、「学校閉庁日」の設定の意義など、教職員一人ひとりの意識改革を進めたが、ストレスチェック総合リスクは 90 となり、昨年度(63)より大幅に増加。学校安全衛生委員会では情報共有するとともに教職員の適性・能力に応じた校内人事等を行っていき。(△)* (府立学校全体総合リスク=98)
	エ 学校経営の状況を、学校運営協議会等で公表し学校運営に資する	エ・学校教育自己診断等、教育活動やその他の学校経営の状況を、学校運営協議会やホームページで公表し学校運営に資する。	エ・教員向け学校教育自己診断における「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」を 79%以上に引き上げる。[76.9%]	エ・学校運営協議会等からの意見に傾聴するとともに学校教育自己診断の結果を的確に分析し、課題解決に取り組んだ。次年度も引き続き、本校の強みと弱みを明確にし、学校経営に活かしていく。(○ [83.3%])
	(2) 教職員の資質向上を図る			
	ア 日常的な OJT の推進と校内研修の活性化	ア・日常的な OJT の推進を図るため、教職経験を踏まえ職員室の机配置を工夫する。また職員会議等を利用した校内研修の活性化を図る。ただし、働き方改革を視野に入れ、生徒との触れ合い・教材研究・生徒指導等の時間確保のため、職員会議後を利用し、その都度研修会・報告会・連絡会を短時間で簡潔に実施し、全教員で共有する。	ア・外部研修会へ積極的に推薦し校内研修・報告会・連絡会を合わせて、10 回以上実施する。[11 回]	ア・特に今年度は、他校と連携した情報共有や勉強会等を積極的に実施することで幅の広い OJT を実現させることができた。また、職員会議で研修報告の機会を設定したことで簡潔型の校内研修の実施につながった。次年度も継続していく。(◎ [10 回以上])
	イ 教職員の資質向上及び校内運営を担う人材の育成	イ・ベテランの教職員の協力を得、ミドルリーダーの育成や、経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。	イ・教員向け学校教育自己診断における①「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係がある。」[92.4%]、②「教職員が色々なことに意欲的に取り組める環境にある。」[83.4%]、の平均を 90.0%以上にする。[87.9%]	イ・研修に参加した教職員も、成果報告を共有した教職員も、自分事として積極的参加した。次年度も継続し、全教職員の更なる意識向上に努める。(◎ [79.2%])
				イ・歪な年齢構成・人数配置の中ではあるが、教職員相互が適度な距離感を保ちながら職務を遂行しており、ミドルリーダーの育成や経験年数の少ない教職員の資質向上が図られている。次年度も全教職員が協力し合いながら人材育成に努めていく。(△ [① 87.5% ②83.3% 平均]85.4%])